

社 会 科

吉 川 昌 博
森 田 誠 一
松 下 浩 一

1 社会科の本質について

私たちは社会科の本質を、教科においてめざすものとして次のように考えている。

様々なかかわりをもった社会の中で生きる人々の生活について理解を図ることにより 社会の一員として問題を解決しながら 主体的・創造的に生きていくための力を養うこと

私たちは様々なかかわりをもった社会の中で生きている。人と人とのかかわり、人と社会や自然、文化などのかかわりである。社会科はこれらのかかわりから学ぶ教科である。人の生活は、どのような人々の働きで成り立っているのか。人は、どのような社会の仕組みの中で生活しているのか。人は、自然にどのように働きかけながら生きてきたのか。人は、どんな文化を生み出し、生活を豊かにしてきたのかなどである。

このようなかかわりをもった社会の中で、子どもたちは将来の学習や生活の場において、様々な課題や問題場面に出会い、それを自分なりに解決しながら主体的・創造的に生きていかななくてはならない。そこで、様々なかかわりをもった社会の中で生きる人々の生活について理解を図ることにより、子どもたちが社会の一員として生きていくための力を養うことを社会科のめざす本質と考えた。

2 本質にもとづく基礎・基本について

全体論において、教科における基礎・基本を、「今の生活において、あるいは今後の生活において、その基盤となったりよりどころとなったりする価値あること」ととらえている。

社会科においても同様に、「様々なかかわりをもった社会の中で、社会の一員として問題を解決しながら、主体的・創造的に生きていく上で基盤となったりよりどころとなったりする価値あること」と基礎・基本をとらえ、以下のように考えた。

- ・社会的事象から問題を発見し その解決方法を自分なりに考え 解決する力
- ・社会的事象について理解をするときに視点となる知識
- ・社会的事象を意欲的に調べることを通して生まれる 社会の一員としての自覚

これらの3点が社会科の学習において獲得されていけば、子どもたちが将来の学習や生活の場において、問題を解決しながら主体的・創造的に生きていく上での大切な基盤となるものと考えらる。

3 自己の学びを広げ深めるについて

教科の学習において自己の学びを広げ深めることを「本質にもとづく基礎・基本を自らの活動を通して身につけ、新たな自分、自信の持てる自分を創っていくこと」ととらえている。

では、社会科における自己の学びを広げ深めるとはどのようなことをいうのか。私たちは「自分とのかかわりから社会的事象を見つめ、問題解決していく中で、その子なりの社会的事象に対する見方・考え方が新しく広がったり深まったりしたと実感すること」ととらえている。

このような学びを促すために、昨年度とらえ直した4つの「かかわり」、自分と社会的事象、

自分と学び方、自分と友だちや教師、そして、自分と地域社会を大切にしたい学習を構想していく。また、今年度は「自らの活動をうながすゆとりを大切にしたい」とおよび「一人一人の活動(姿)を見てとり生かす」という2点を考慮していくことにした。

(1) 社会的事象との主体的なかかわりを大切にしたい

子どもが学習の対象である社会的事象と主体的にかかわるとは、社会的事象に対して自分なりに目的意識と行動力をもって取り組むことであり、社会的事象を他人の問題としてとらえたり、単なる知識レベルで理解したりするのではなく、自分自身や自分の生活とのかかわりでとらえることである。そのためには、子どもにとって身近なもの・こと・人と出会わせること、社会的事象との出会いや問題解決に時間的なゆとりある学習を構想すること、自分の興味・関心にもとづいて精神的ゆとりをもって問題追求できるようにすることが大切であるとする。そして、子どもが社会的事象と主体的にかかわることは、学習によって獲得された力や知識をその後の学習や生活の中で生かすことにつながると考えている。

(2) 自分なりの学習の仕方に対するかかわりを大切にしたい

社会的事象に対する追求の方法や内容・まとめ方など、子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切にすることである。子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切にしたいとは、自分の思いを大切にしながら学習活動を子ども自らが考え、追求の方法や内容・まとめ方を選択し決定しながら組み立てていけるようにすることである。そのためにも、子どもの思いや実態に応じた柔軟な単元を構想することや細やかな支援が必要になると考える。

(3) 子ども相互や教師とのかかわりを大切にしたい

友だちと協力して調査・見学をしたり、追求したことを共同でまとめたりする活動を設定したり、また、互いの考えを出し合い認め合う、話し合いや討論の場を設けたりすることである。子ども相互や教師とかかわる場や機会を設けることにより、友だちや教師とかかわりながら、それぞれのよさを学ぶとともに、自分なりの気づきや考えの深まりを自覚していくようになる。また、周囲の友だちや教師から支えられ認められ励まされながら学習に取り組んでいることに喜びを味わうようになり、学習に対する意欲を高めていくことになる。そして、まわりの人々との認め合いや相互評価・自己評価のくり返しの中で、自分の高まりや深まりに気づき、新しい自分を発見していくものとする。

(4) 地域社会とのかかわりを大切にしたい

子どもの社会の一員としての自覚を促すためには、子どもと地域社会とのかかわりある学習を重視していくことが大切になる。それは積極的に地域の素材を教材化したり、地域の施設や住んでいる人たちに協力を要請したりすることである。地域社会とのかかわりを重視した学習を進めることによって、子どもたちは地域社会と自分自身や自分の生活とのかかわりを強く意識するようになり、地域社会の一員としての自覚をもつようになるとする。そのためには、地域社会やそこに住む人々との出会い・交流・体験に必要な時間の保障や場の設定を工夫していくことが大切になると考える。